

【別添2-7】

北海道旭川商業高等学校 文学国語 年間指導計画(4単位)				A 36 時間		B 104 時間		C 時間		計 140 時間							
				単 元 名													
				4月 と筆者 のとの 間の係 に方 つや感 じ考 え方 をよ み。取 り言 葉	4・5月 み表何 よ現を うしど 。たの いよう こに を 書 く確 か とい う小 説を 書い てし	5月 筆者 の考 えを 表 現に 即 して 読 み取 らう。	5・6月 の論 の展 開に つ いて ま ま考 えて 筆 者 の主 張を 捉え、 詩	6月 をの 主 張中 に理 おけ る。解 し、引 用の 役割 意義 に押 さ えて 理 解者	7月 う生登 。き場 る人 私物 たの ち心 が情 抱を 理 解し つ つ、 現 代 社 会に	8月 表具 現的 の仕 方例 から 工 夫し よう。 。展 開を 意 識し た	8・9月 言人 業称 とを 巡 る筆 者 の体 験に つ いて 考 えを 読 み取 り、	9・10月 の人物 あり の関 係性 につ いて 心 情を 的 確に 深 めよう。 。人 の心	11月 え読対 よみ話 。を軸 。原爆 に した 禍成 に人 間の 幸 福に つ いて 戯 曲を	11・12月 え取登 よう場 。現人 。物 の言 動に お ける 心 理を 表 現に 即 して 読 考 み	12月 が物 語の 展 開を 把 握し つ つ、 そ こに 浮 か び上	12月・1月 う藤構 。を成 読や み時 代背 景に 注 意し な が ら主 人公 の葛	
科目の目標																	
(1) 知識及び技能				生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。													
(2) 思考力、表現力、判断力等				深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。													
(3) 学びに向かう力・人間性等				言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。													
学年		第3学年		担当													
使用教科書				東京書籍 文学国語													
指導領域				A 書くこと													
授業時数の計				36		時間											
指導領域				B 読むこと													
授業時数の計				104		時間											
指 導 事 項																	
知識及び技能	(1)	ア	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。	○	○		○										
		イ	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。			○			○								
		ウ	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。						○								
		エ	文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。							○	○						
(2)	ア	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。									○				○		
	イ	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。										○	○				
思考力、判断力、表現力等	書くこと	ア	文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。		○												
		イ	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。			○											
		ウ	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。				○										
		エ	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかななどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。					○		○							
	読むこと	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。	○												○	
		イ	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。							○							
		ウ	他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。										○				
		エ	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。									○					
		オ	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。										○				
		カ	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。											○			
		キ	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。												○		
		教 材 名															
※各単元の目標について				随筆 「光の窓」													
(1) 「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。				言語活動 「小説を創作する」													
(2) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わろうとする。」までを示す。				評論 「言葉を生きる」													
※各単元の評価規準の設定について				評論 「詩と感情生活」													
(1) 「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]の指導事項の文末を「～している。」として作成する。				評論 「文学の未来」													
(2) 「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[思考力、判断力、表現力等]の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)において、」と明記し、文末を「～している。」として作成する。				小説 「山椒魚」													
(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)、②自らの学習の調整(学習の見直しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)、③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)、④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようとしている。」として作成する。				詩歌 「モードの変遷」													
				随筆 「空っぽのボトル」													
				小説 「ころ」													
				戯曲 「父と暮らせば」													
				小説 「コンビニの母」													
				小説 「葉桜と魔笛」													
				小説 「舞姫」													